



学校だより
ながや

令和5年 9月28日
横浜市立永谷小学校
校長 神田 敏之

「去年の6年生もこんなにつかれて大変だったんだなと思いました」

校長 神田 敏之

「あつまれみんなのアイデア！つくろうオンリーワンのなかよしエンジョイパーク！」というスローガンのもとなかよしフェスティバルという行事を行いました。本校では、年間を通して1年生から6年生のメンバーが入ったなかよし班を組織しています。その班を中心に行いました。当日はそれぞれの班ごとに教室でできるゲーム（ミッション）を運営します。それを他の班の人たちが体験（ミッションラリー）をするという流れです。

上の言葉は終わった後の6年生の振り返りに書かれていたものです。5年生まではどちらかという受け身で、6年生が運営していたことについていった感じだったかもしれません。それが今年は自分たちが中心にならなくてはなりません。この子どものめあてには「6年生最後のなかよしフェスティバルを楽しく、仲を深めて、カッコいい6年生の姿を見せたいです」とありました。下の学年の手本になると同時に、班のみんなの仲が深まるということも考えています。

このような異なった学年が混ざった活動をなぜ行うのでしょうか。まずは、自分のリーダーを発揮させる場面を多く確保したいということです。班の中はさらに4つの小グループに分かれています。そうすると小グループの中は、6年生は2名ほどになり、下の学年へ話をしたり話を聞いたりする役割をだれもが果たす場面が出てきます。日頃の教室ではなかなか前に出られない子どもにも機会が生まれます。5年生以下の子どもにとっても自分たちができることを探して行動するということが必要になります。今回はゲームの運営をするということで、多くの子どもが役割をもって活動することができていました。役割をもつだけでなく、ミッションラリーの時に、グループからはぐれないでついていくこと、順番を守って並ぶこと、自分は我慢して下の学年の意見が通るように譲ってあげること、なども自分のリーダーを発揮している立派な姿です。主体的に行動する、自分のリーダーを発揮するということは、自分で考え自分の行動を決めるということです。学年にかかわらずどの子どもにもできることです。周りの大人が小さなことでも自分で自分の行動を決められていることを認めていきたいと思います。

また、一緒に何かに取り組むということで互いを知り合うことができる活動ということもあります。今回はゲームを通してですが、学校生活では朝の会、授業、給食、掃除、帰りの会といろいろなことを共に行うことにより、その人のことがわかってきます。同じものが好きだったとわかるとその人との距離が近くなった気がしてきます。その結果として仲が深まってきます。普段の友達とのかかわりに比べ、なかよし班での活動が苦手だという子どももいます。そのような子どもにこそ、このような活動を通して互いを知るといった経験を多くさせたいと思います。



今年度は子どもたちの様子についてホームページも活用してお知らせします。
月1回程度を予定していますので、「学校日記」等のページをご覧ください。